



2011～2012 年度
国際ロータリー会長

カルヤン・バナネルジー

Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 12月第3例会 (2011.12.20) No.2926

(1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

(2) 佐藤 紳一会長挨拶

石本隆太郎ガバナー公式訪問

今日、12月20日は恒例となっておりますロータリー保育園の訪問してまいりました。クリスマスプレゼントをあげたり、園児の皆さんの遊戯を見たり、笑ったり、涙を流したり楽しい時間を過ごしました。同行したメンバー、社会奉仕委員会のメンバー、大変ご苦労様でした。

12月16日福島箕輪へ今シーズン初滑りに行ってまいりました。グレンデの50%は自衛隊の訓練中、中学生スキー部、インストラクターの講習。残る50%はシルバーエイジです。身分証明書を提出しなくてもキャップとゴーグルを取ると一目でわかる頭髪と目尻。しかし若々しくグループ交際を楽しんでいます。リフトのお父さんに「地震すごかったでしょ？」と聞くと「山が割れるかと思った。」と怖さを語っていました。国道沿いの地産の蕎麦や野菜売りの店はすべて閉まっており、地震から9ヶ月も経つのに爪あとは残っています。スキー場も2か所だけのオープンです。頑張ろう福島です。

(3) 幹事報告 (高橋 秀松幹事)

・12月27日 1月3日は規定休会となります。

・1月10日は 樋熊 紀雄地区大会実行委員長よりお話がありますので第一例会の結婚誕生祝等の行事を全て24日に行います。また、当日お預かりするご寄付の発表も24日に行います。

石本隆太郎ガバナー公式訪問・講話

1・みなさん 今晚は！7月1日より2560地区ガバナーに就任し、7月19日の長岡RCを皮切りに始まった公式訪問も、本日が57クラブ目の最終回となりました。

2・ホームクラブでのガバナー講話というのは、気恥ずかしくて大変やりにくいのですが、必要最小限の事だけ申し上げ、役目を務めさせていただきます。

3・まず初めに、当クラブからは小山幹事始め、高橋財務委員長、柴田PETS実行委員長、塚田地区協議会実行委員長、樋熊地区大会実行委員長とそれぞれの副実行委員長、さらに地区委員会担当幹事として10名もの皆様よりご協力いただいております、本席をお借りいたしまして、心から厚く御礼申し上げます。

4・私は、新潟ロータリークラブに入会して、来年1月で丁度30年になりますが、入会して10年目の1992年、栗山清ガバナー年度に地区拡大委員長を仰せ付き、新潟中央クラブ、新潟万代クラブ、新発田中央クラブの設立のお手伝いをさせていただきました。

5・入会して18年目の2000年～01年は、2560地区が新潟と群馬に分割された年ですが、この年度のクラブ会長を務めさせていただきましたので、今回のガバナーを含めまして、大体、10年毎の節目の年に、大役を仰せつかってまいりました。

6・ところで、私の生まれは1942年(昭和17年)で、カルヤン・バネルジーRI会長と同年になります。バネルジー会長は、私が新潟RCに入会した年に、地区ガバナーを終えておられ、その後の国際ロータリーのキャリアも豊富で、大変、威厳のある方でした。

7・本日の講話は、これまでの56クラブでの講話を若干詰めながら、

- ① RI会長の年度テーマ、②定款・細則の重要性、③地区運営における会員増強と出席率向上の3つを中心に、お話しさせていただきます。

RI会長の今年度テーマ

1・ガバナーは「地区における唯一のRI役員」となっておりますが、ロータリー章典には、

「RI会長の年次メッセージは、特定のプログラム、あるいはテーマを問わず、当該年度におけるロータリープログラム遂行上、最大の重要性を持つものである。・・・中略・・・

RIテーマは使用すべき唯一のテーマであり、他のテーマの使用は控えなければならない。」と明記されています。

2・そこで、本日は、最初に今年度のカルヤン・バネルジーRI会長の年度テーマ「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」という年度テーマについて、かなり派手目のロゴマークを基に説明させていただきます。

3・一番上の太陽のような赤い丸は「博愛」をイメージし、それをその下の赤と黄色で形どられたハートが捧げ持つようにし、それを中段の腕で抱きしめるようにしながら、一番下の大きな腕が、ロータリアン、あるいは人類全体を表現しているとのことであります。

4・バネルジー会長は、「世界の変化を望むなら、あなた自身がその変化にならなければならない。」というマハトマ・ガンジーの言葉を引用しながら、新年度の強調事項として、第一に「家族」ということをあげられました。

5・今年1月、アメリカのサンディエゴで開催された国際協議会で初めてこれを聞いた時は、会長が貧しいインド出身だから「安全な家であるとか、強い家族とかおっしゃっている。」のだと単純に考えておりました。

6・3月11日の東北大地震で、安全な家どころか、食べ物、飲む水、家族まで失った人々の悲惨な状況を目の当たりにし、それまで“日本は例外！”などと考えていたことを痛切に反省するとともに、まさに家族こそが社会の礎であり、家族の絆の大切さを痛感しました。

7・バネルジー会長は、強調事項の第二に、「継続」をあげておられます。つまり、これまでロータリーが得意としてきたこと。きれいで安全な水の確保や、識字率の向上、とりわけ「ポリオの撲滅」等々を、さらなる努力で継続してほしいということです。

8・第三の強調事項は、「変化」です。日本のロータリーが他の先進国に比べて、直近の10年余りの間に2割以上も会員数を減らし、ピーク時の13万人から9万人を割り込むまでになっております。

9・これは、我々がこれまで継続してきた様々な事業が、日本の実情や、我々、ロータリアンのニーズとミスマッチを起こしているのではないかとその思いを強くしています。

10・大きく変化しているこの現実をきっちりと認識し、「我々がなすべきことは何なのか！」

を一日も早く見出す必要があると考え、地区運営の基本方針を「自らの足元を見直そう」とするとともに、「7つのお願い」を皆様にご提案させていただきました。

定款・細則の重要性

1・3月19日のPETSと、5月21日の地区協議会の基調講演に、田中 毅先生(尼崎西RC・PG)を講師にお迎えしましたが、ご講演を聞かれた方は、ご記憶のことと思います。

2・田中先生は、【変えてならないもの】として「ロータリー哲学」即ち「ロータリーの奉仕理念」を挙げられ、「それを分りやすく表わしたのが『クラブ定款』である。」と述べられ、それから逸脱したら、もはやロータリーではなくなると警告されました。

3・一方、【変えなければならないもの】として、「管理運営方法」と、「奉仕活動の実践」の二つを挙げられました。「組織の管理運営方法を長年変更しないでおくと、必ず制度疲労を起こす。又、奉仕活動の実践は、地域ニーズの変化に従って、柔軟に対応しなければ意味がない。それらを端的に示すのが『クラブ細則』であり、会長が変われば方針も変わるのだから、事業方針の羅針盤として、クラブ細則は毎年見直しが必要。」と話されました。

4・変えてはならない定款といえども、3年毎にシカゴで開催される規定審議会で大きな変更事項があった場合、直ちに改定して、全会員に周知徹底を図る必要があります。

5・一方、細則は「毎年、見直しが必要」と教えられ、私も

ビックリしましたが、当地区ではクラブ規模の大小や歴史の長さに全く関係なく、“現況報告書の末尾に、クラブ定款・細則の一部抜粋だけを記載しただけのクラブが大半！”というのが実情でした。

6・幸い、当クラブは、定款・細則共に「手続要覧・2010年版」を基に全文掲載しており、ほぼ完璧でした。ただ、ほとんどの会員は、定款・細則には余りご関心が無いと存じますので、この場を借りて、ポイントだけ話させていただきます。

7・注意すべき点は、手続要覧・2010年版より定款5条に五大奉仕部門として、新世代奉仕が加わった点と、定款9条の第3節、出席規定の免除のところ、「年齢65歳以上の会員」という条件が加わり、さらに、出席の記録方法が変更になった点。定款10条 理事、及び役員第4節で、直前会長が、「役員」として明記され、役員は原則7名となった点等です。

8・定款・細則は、「クラブの土台を形成する設計図」ともいべきもので、社員教育と同様、質の高いロータリアン養成のためには、新入会員時代から、定款・細則を正しく教育することが必要で、けっしてクラブ幹部だけのものではありません。

9・これからの人口減少時代や経済情勢の変化に対応し、年会費や例会開催時間等についても、クラブ会長(エレクト)の方針を織り込んで、毎年、見直す必要があるのです。

会員増強と出席率の向上について

1・今まさに、時代は大きく転換しております。3月11日の東日本を襲った大震災は、福島原発の放射能汚染問題とも重なり、今後の日本経済、とりわけ地方経済にどれだけ悪影響をもたらすか見当もつきません。

2・去る7月16日に開催の「第2560地区・会員増強セミナー」には、地区内57クラブを会員数順に並び替えまして、栗山G年度を基準とする、過去20年間のクラブ会員数の増減を比較した「会員増強健康診断書」を基に、基調講演をさせていただきました。

3・地区内57クラブ中、過去20年間で、最多会員数を維持しているクラブは皆無であり、90%以上を維持しているクラブが5クラブ。50%を割り込んだクラブが16クラブもあり、3クラブがピーク時の20%以下に激減。会員数も10名を切って、機能喪失状態です。

4・規模の大小を問わず、どちらのクラブも多かれ少なかれ、会員減少に苦しんでおります。当クラブも1940年の創立時の29名からスタート、1991~97年にかけて130名台を上回った時期もありましたが、バブル経済崩壊と共に100名の大台を割り込み、ここ数年は80名

前後で推移しております。

5・会員増強セミナーでも申し上げましたが、会員増強は生活習慣病の治療と同じで、一発で効く特効薬や万能薬は無く、病気を治そうという、会員自身の意思が何より大切です。

6・一方、安定したクラブ運営を維持・活性化するためには、会員増強と共に出席率の向上に努めることが肝要で、当クラブは創立以来、ずっと90%台を維持しておりましたが、会員減少と歩調を合わせるように出席率も低下傾向で、

この数年、80%台で低迷しています。

7・ロータリーに参加する意義は、第一に出席することによって得られるのでありますから、各委員会を総動員して例会内容の充実を図り、例会出席率が上がれば会員増強につながるという好循環を維持していただきたいと思えます。

8・当クラブは、名実ともに当地区における“リーディング・クラブ”でありますので、今後とも地域になくはならない奉仕団体として、大きく羽ばたかれ、会員各位のますますのご活躍を祈念いたしまして、本日の講話を終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。